

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

科目名		ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
福祉心理学基盤演習 I			必修	2	2	前期
担当教員		研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
高田 毅		B301	t.takada		木曜日 13:00~14:30	
授業の目的・概要		<p>&lt;目的&gt;社会福祉、心理学の各領域についての理解を深めることで、3年次から始まる福祉心理学専門演習に向けた関心領域の基礎的な知識やスキルを習得する。本授業では、新型コロナウイルスによる現状に対応し、対人援助におけるストレス反応や災害臨床に関する基礎について身につけることを目的とする。また、専門文献を講読するスキルの取得も目的とする。</p> <p>&lt;概要&gt;課題学習、同時双方向授業で授業を展開する。課題学習ではレジュメを提示し、自分のセルフケア状況に沿ったフィードバック課題の提出を求める。同時双方向授業ではサイコロジカル・ファーストエイド (PFA) をテキストとしてオンライン上でのディスカッションを展開し、臨床的な見方や考え方を検討し深める。</p>				
学習上の助言		<p>オンラインディスカッションがほとんどなので、積極的に参与すること。</p> <p>講義中の質問・疑問・関心・感想はその都度発言し、授業内で消化すること。</p> <p>体験は人それぞれなので、自分の固有の体験に正直になり、学びにすることが重要である。</p>				
教科書		プリントを配布する。				
参考書		随時紹介する。				
学生が達成すべき行動目標					関連卒業認定・学位授与方針	
①	心理学の専門的な文献を読むことができる。				心(2)	
②	ストレス反応についての理解を用いて自らのストレス反応に対処できる。				心(2)	
③	サイコロジカル・ファーストエイドの理解を踏まえた対人援助の基礎を説明できる。				心(2)	
④						
⑤						
⑥						
授 業 計 画						
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)			
1	オリエンテーションを行う。この授業で行う内容を、レジュメを通して理解する。自分のキャリアについて課題を通して再検討する。	課題送付・提出・フィードバック	レジュメを理解した上で、キャリアに関する課題を提出する。メールで個別にフィードバックする。			
2	PFA とは何かをレジュメを通して学ぶ。	課題送付・提出・フィードバック	PFA の概要をまとめて提出する。4回目に振り返り。			
3	セルフケアについて学ぶ①：今の自分のストレス状況を、チェックリストを使いながら学ぶ。	課題送付・提出・フィードバック	チェックリストを用いてセルフケアをまとめる。4回目に振り返り			
4	セルフケアのディスカッション②：3回分の課題学習の振り返りと、ディスカッションを行う。	同時双方向型授業	ディスカッションを元にセルフケアの振り返りをまとめる。			
5	「実習生理解の鍵としての急性ストレス反応と青年期発達課題」のディスカッションを行う。	同時双方向型授業	<p>事前に PFA の該当部分を読み連想と疑問点を提出する。終了後に本日の学びと他の学生の連想と疑問点を見て学んだことを提出する。</p>			
6	PFA のディスカッションを行う①：はじめに、1.被災者に近づき、活動を始める(-p.10)	同時双方向型授業				
7	PFA のディスカッションを行う②：2.安全と安心感 (前半) (-p.17)	同時双方向型授業				
8	PFA のディスカッションを行う③：2.安全と安心感 (後半) (-p.25)	同時双方向型授業				
9	PFA のディスカッションを行う④：3.安定化、4.情報を集める(-p.34)	同時双方向型授業				
10	PFA のディスカッションを行う⑤：5.現実的な問題の解決を助ける、6.周囲の人々との関わりを促進する(-p.41)	同時双方向型授業				
11	PFA のディスカッションを行う⑥：7.対処に役立つ情報(-p.51)	同時双方向型授業				
12	PFA のディスカッションを行う⑦：8.紹介と引き継ぎ、付録 A-D(-p.66)	同時双方向型授業				
13	PFA のディスカッションを行う⑧：付録 E (前半) (-p. vii)	同時双方向型授業				
14	PFA のディスカッションを行う⑨：付録 E (後半) (-p. xv) レポート課題の提出	同時双方向型授業				
15	1学期のまとめと振り返りを行う。レポート課題の振り返りも行う。	同時双方向型授業	1学期通しての学びを整理する。			

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

試							
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	70	0	0	30	100
総合力指標	知識・技術力	0	10	0	0	10	20
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	10	0	0	0	10
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	10	20
	コミュニケーション力	0	10	0	0	0	10
	取組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	0	10
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	10	20
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	14 回までの内容を踏まえたレポート課題を課す。基本理論を踏まえた応用問題を出し理解度を問う。 丁寧に、かつ具体的に記述することが求められる。				15 回目の授業で返却とともにコメントを加える。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	毎回の授業後に本日の学びと他の学生の連想と疑問点を見て学んだことを Microsoft Teams の課題機能を用いて提出する。具体的に丁寧に書かれているか、自分の日常の体験と繋いで理解できているかを評価する。 (2 点×15 回=30 点)				振り返りに教員がコメントを加えて返却する。 必要に応じて次回の授業で補足する。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>Microsoft Teams を用いた同時双方向型授業を行います。課題ダウンロードなどを行いますので授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を奨励します。</p> <p>尚、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもあります。</p> <p><b>教員の実務経験：</b>臨床心理士として 12 年の臨床経験。</p> <p><b>実践的授業の内容：</b>ミニワークを数多く取り入れ、ディスカッションを軸に授業を展開する。その際にグループセラピーの技術を応用する。個人情報に配慮しつつ、事例などを用いて体験から学ぶことを促す。</p> <p>※演習の欠席は 3 回までしか認められない。遅刻も 1 回で欠席 0.5 回の扱いになるので注意すること。 授業に参加し、体験から学ぶことが求められる。その点を理解の上受講すること。</p>							